

【1AM-81】音のレベル表示について正しいのはどれか。

1. 聴力レベルの基準値は $20\mu\text{Pa}$ である。
2. 音圧レベルの 0dB は正常耳の聴覚閾値レベルに等しい。
3. 感覚レベルが 10dB の音は聞こえない。
4. 聴力レベルが等しい音の強さは等しい。
5. 感覚レベル 0dB は聴覚閾値レベルと等しい。

【2AM-76】音圧レベル 40dB の音を 80dB で出力する補聴器の増幅倍率はどれか。

1. 2 倍
2. 10 倍
3. 20 倍
4. 40 倍
5. 100 倍

【4AM-78】音圧レベルの基準音圧について正しいのはどれか。

1. 被験者や周波数に関係なく一定の値
2. 個々の被験者の周波数毎の最小可聴値
3. 国際規格で決められた周波数毎の最小可聴値
4. 同じ大きさに聞こえる 1kHz 純音の音圧
5. 若年健常者の最小可聴値の平均値

【4AM-83】自由音場での最小可聴値について正しいのはどれか。

1. 周波数が高くなるほど低くなる。
2. 周波数が低くなるほど低くなる。
3. 1kHz 付近で最も低くなる。
4. 2kHz 付近で最も低くなる。
5. 4kHz 付近で最も低くなる。

【5AM-75】45dB 増幅し 25dB 減衰させると 0dB SPL になる音の音圧はどれか。

1. $90\mu\text{Pa}$
2. $70\mu\text{Pa}$
3. $40\mu\text{Pa}$
4. $20\mu\text{Pa}$
5. $2\mu\text{Pa}$

【6AM-81】自由音場で 1kHz 純音の音圧を騒音計で測定したとき正しいのはどれか。

1. A特性より F特性で測定した値の方が大きい。
2. A特性より C特性で測定した値の方が大きい。
3. A特性と C特性とで測定した値は同じである。
4. F特性より C特性で測定した値の方が大きい。
5. F特性より A特性で測定した値の方が大きい。

【7AM-42】誤っているのはどれか。

1. ヒトの聴覚は 20Hz から 40,000Hz までの気導音を感じる。
2. 125Hz より低い周波数では振動感が生じやすい。
3. 気導音の両耳間移行減衰量は約 50dB である。
4. 外有毛細胞は周波数弁別の機能を有する。
5. 中枢聴覚路は語音の弁別に関与する。

【8AM-82】オーディオメータの検査音のダイヤルレベル値が表すのはどれか。

1. 音圧レベル
2. 音の強さのレベル
3. 音の大きさのレベル
4. 聴力レベル
5. 感覚レベル

【8PM-189】騒音障害防止措置を講じる必要がある最低の等価騒音レベルはどれか。

1. 70dB
2. 75dB
3. 80dB
4. 85dB
5. 90dB

【9AM-83】オーディオメータで用いる雑音について誤っているのはどれか。

1. 純音聴力検査では狭帯域雑音を用いる。
2. 語音聴力検査では広帯域雑音を用いる。
3. 純音聴力検査では音圧レベル値が表示される。
4. 語音聴力検査では実効マスキングレベル値が表示される。
5. 語音聴力検査では数字語表をもとに基準値が決められている。

【10AM-76】音圧レベルと音の強さのレベルについて正しいのはどれか。

1. 音圧レベルは 20mPa を基準にしている。
2. 音の強さのレベルは音圧に比例する。
3. 音圧レベルと音の強さのレベルとの値は一致する。
4. 音圧 (の実行値) を 2 倍にすると音の強さのレベルは約 3dB 増える。
5. 音の強さを 2 倍にすると音圧レベルは約 6dB 増える。

【10AM-83】6 か月ごとに聴力検査を含む定期健康診断が必要とされる職場の騒音レベル (A特性サウンドレベル) の最小値はどれか。

1. 75dB
2. 85dB
3. 95dB
4. 105dB

5. 115dB

【11AM-39】1000Hz、20mPaの純音を20dB増圧したときの正しい音圧レベルはどれか。

1. 20dB
2. 40dB
3. 60dB
4. 80dB
5. 100dB

【11AM-95】音のレベルの表し方でオーディオグラムの縦軸の表示はどれか。

1. SPL
2. HL
3. SL
4. nHL
5. peqSPL

【16PM-139】音圧レベルが60dBの複合音を線形増幅器で20dB増幅した音圧はどれか。

1. 2mPa
2. 20mPa
3. 200mPa
4. 2Pa
5. 20Pa

【16PM-197】標準人体模型（成人）による裸耳利得がピークを示す周波数に最も近いのはどれか。

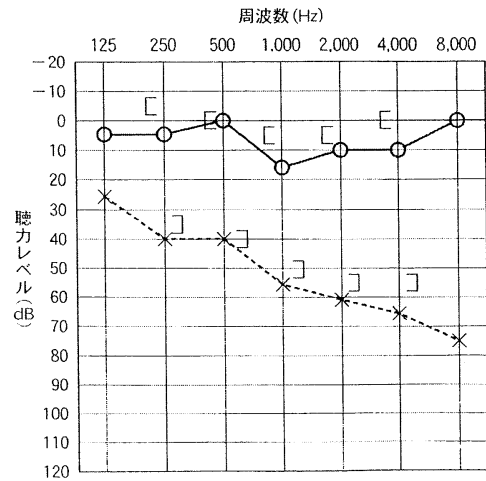
1. 500Hz
2. 1,000Hz
3. 2,000Hz
4. 4,000Hz
5. 6,000Hz

【17PM-95】オーディオメータで提示する検査音のダイヤル値が示すのはどれか。

1. 音圧レベル
2. 聴力レベル
3. 感覚レベル
4. 等価騒音レベル
5. ラウドネスレベル

【17PM-194】図に示すオーディオグラムの解釈で正しいのはどれか。

1. 右耳 —— 伝音難聴
2. 右耳 —— 感音難聴
3. 両耳 —— 混合難聴
4. 左耳 —— 伝音難聴
5. 左耳 —— 感音難聴



【18PM-138】大気中で音圧20μPaの純音を線形増幅器で20dB増幅したときの音圧レベルはどれか。

1. 10
2. 20
3. 30
4. 40
5. 50

【19PM-141】正しいのはどれか。

1. 騒音レベルが85dBを超えなければ騒音とは感じない。
2. 音脈とは一つの音を構成する正弦波成分のことである。
3. 複数の音源から音が同時に到来すれば一つの音に聞こえる。
4. 人が不安にならないためには音を遮断するのが効果的である。
5. 環境音の聞き取りはいち早く危険を察知するための情報取得の働きを持つ。

【21AM-40】音圧と音圧レベルとの関係について誤っている組合せはどれか。

1. 基準音圧の1/10倍 — -20dB
2. 20μPa — 0dB
3. 基準音圧の2倍 — 2dB
4. 基準音圧の10倍 — 20dB
5. 2×10^{-3} Pa — 40dB

【22PM-141】聴覚疲労について誤っているのはどれか。

1. 瞬間的な騒音暴露によって生じる。
2. 一過性の閾値の上昇が観察される。
3. 電車内等騒音下のヘッドホン聴取で生じやすい。
4. 繰り返すことによって恒常的な閾値上昇につながる。
5. 音響の大きいコンサートの後などに環境音の聞こえ方が変化する。